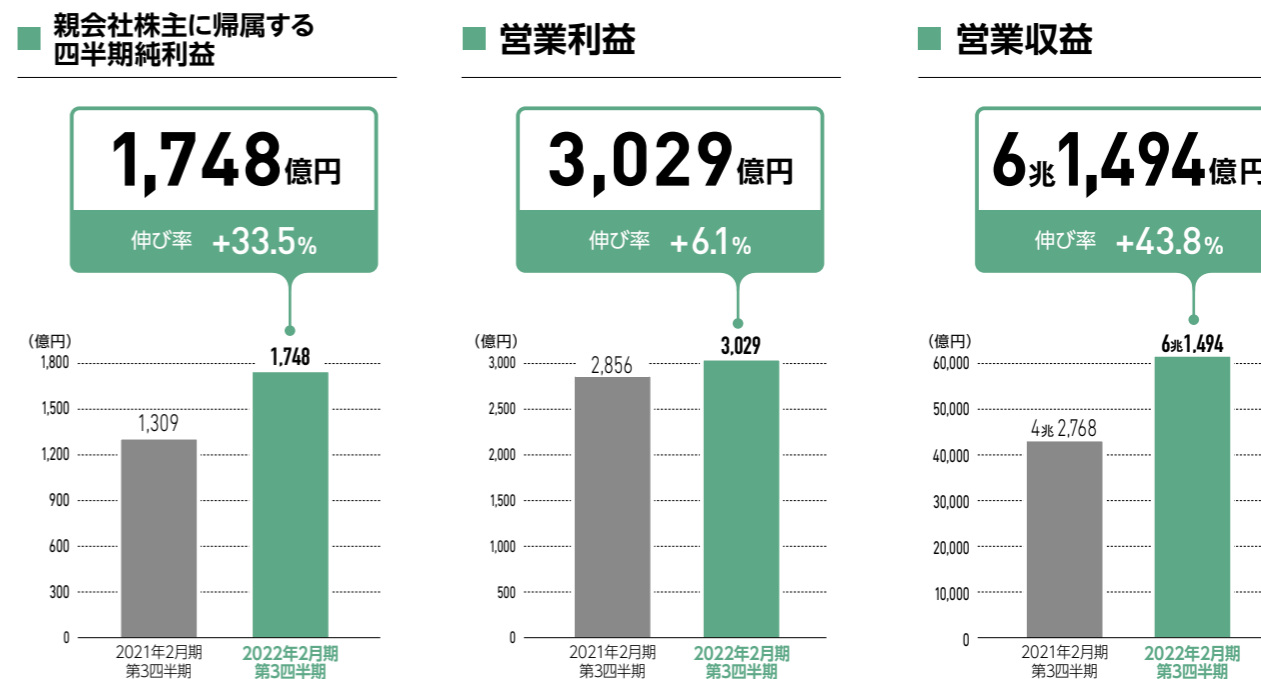




※ 主な事業セグメント別営業利益

国内コンビニエンスストア事業	1,772億円 伸び率 -2.8%	セブン・イレブン・ジャパンは、新型コロナの影響により、いつもの小商圏化が進み、個店ごとのお客様ニーズの違いが顕在化する中で、2020年度からはさらにお客様ニーズの変化に対応した新レイアウトの導入を進めました。併せて、多様化するニーズに対応し、すべての地域社会に利便性を提供することを念頭に、DXの推進をしながら、加盟店や取引先も含めたバリューチェーン全体での持続的な成長の実現に取り組んでいます。 これらの結果、当第3四半期連結累計期間における既存店売上は夏場の天候不順による消費の下押し影響から弱含みで推移したものの前年の新型コロナ拡大抑止にともなう外出自粛の反動などにより前年を上回りました。しかしながら、商品販売動向変化にともなう商品荒利率の低下と販売費及び一般管理費の増加により、営業利益は1,770億96百万円（前年同期比2.7%減）となりました。
海外コンビニエンスストア事業	1,247億円 伸び率 +56.2%	北米においては、新型コロナの再拡大があった一方で、各種政策の実施などにより個人消費は安定した伸びを示し堅調に推移しています。 7-Eleven, Inc.は、生活様式の変化に対応し、デリバリーサービスやデジタルウォレット、モバイルチェックアウトなどの取り扱い店舗拡大により新たなサービスの拡充に努めると同時に、ファスト・フードやプライベートブランド商品の開発・販売に引き続き注力しました。また、2021年5月14日付で米国Marathon Petroleum Corporationから主にSpeedwayブランドにて運営するコンビニエンスストア事業などに関する株式その他の持分を取得したことにより、それ以降のSpeedway事業の業績を取り込んでいます。 これらの結果、当第3四半期連結累計期間のドルベースの米国内既存店商品売上は前年を上回り、営業利益は1,671億59百万円（前年同期比74.9%増）となりました。
スーパーストア事業	101億円 伸び率 -49.1%	イトーヨーカ堂は、引き続き事業および店舗構造改革を推進しています。前年、巣ごもり需要にともない伸長した食品は、当第3四半期連結累計期間においてもお客様ニーズの変化に対応したことで高止まりが続きました。テナント含む既存店売上は、前年の営業時間短縮やアリオのテナント部分休業などの反動もあり、前年を上回りました。しかしながら、前年に特別損失に振り替えた新型コロナ拡大による休業に係る固定費の影響などもあり、営業利益は前第3四半期連結累計期間と比べ43億61百万円減の24億65百万円の損失となりました。 ヨークベニマルは、前年の外出自粛にともなう巣ごもり需要の反動などにより当第3四半期連結累計期間における既存店売上は前年を下回り、営業利益は106億49百万円（前年同期比23.3%減）となりました。
百貨店・専門店事業	-102億円 前期差額 +45億円	当セグメントは、グループ戦略の一環として大型商業拠点戦略を推進するため、旧「百貨店事業」、旧「専門店事業」を統合し、「百貨店・専門店事業」へと変更しました。百貨店においては前年の営業時間短縮や入店者数制限の反動などにより既存店売上が前年を上回りましたが、レストランにおいては営業時間短縮や酒類提供制限が余儀なくされるなど、厳しい環境が続きました。 これらの結果、百貨店・専門店事業の営業損失は前第3四半期連結累計期間と比べ45億53百万円減の102億17百万円となりました。
金融関連事業	302億円 伸び率 -19.2%	セブン銀行は、前年の新型コロナ拡大抑止にともなう外出自粛の反動や各種キャッシュレス決済にともなうATMでの現金チャージ取引件数が増加したことにより、1日1台当たりの平均利用件数は96.3件（前年同期差7.0件増）となり、ATM総利用件数は前年を上回りました。

連結業績



当第3四半期業績概況

当第3四半期連結累計期間における国内および海外経済は、新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）による厳しい状況が徐々に緩和されつつあったものの、強い感染力が懸念される変異株（オミクロン株）による感染再拡大への不安などにより、景気持ち直しの動きには引き続き弱さがみられました。このような環境の中、当社グループはお客様と従業員の安全確保を最優先に、基本方針として掲げる「信頼と誠実」「変化への対応と基本の徹底」を体現し、中長期的な企業価値創造と持続的成長に取り組んでいます。

また、2021年5月14日付で米国Marathon Petroleum Corporation から主にSpeedwayブランドにて運営するコンビニエンスストア事業などに関する株式その他の持分を取得したことにより、連結業績にそれ以降のSpeedway事業の業績を取り込んでいます。

2022年2月期通期予想

(2021年3月1日～2022年2月28日)

	金額	伸び率	修正額 (1月13日修正)
営業収益	8兆7,220億円	+51.2%	+4,130億円
営業利益	4,000億円	+9.2%	+200億円
経常利益	3,685億円	+3.1%	+250億円
親会社株主に帰属する当期純利益	2,150億円	+19.9%	+250億円

グループ売上：14兆2,260億円（伸び率+28.8%、修正額+4,140億円）

セブン・イレブン・ジャパン、セブン・イレブン・沖縄および7-Eleven, Inc. における加盟店売上を含む

これらの結果、営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する四半期純利益はそれぞれ2年ぶりの増益となりました。

通期予想は、海外コンビニエンスストア事業の好調を受け、各段階利益において上方修正しました。